

(1)入定した場所に建てたお堂（岡波太、谷）で

①彼岸、命日、お盆、年越など季節ごとの草刈り（年5回）

②命日（4月17日）（旧暦2月17日）

朝三時に起き、もち米三升を炊いて赤飯に。筍のフキも煮、手づくりのお新香も持ってお堂におそなえ。おまいりに来た方々にもお茶とともにふるまう。

③お堂の管理、修繕

①～③すべて、法師さまを泊め、ずっと面倒を見た磯崎家の方々が代々行う。「人によくしてあげたい」…これが当り前の家風として受け継がれ、今は磯崎さんが一人で行う。（2023年7月6日 聞き取り）

(2)浜波太の各お堂（浜波太のオク（漁業側）、アラト（砂浜側） 二か所）で

各お堂には他の像もあり、それぞれ一体ずつ法師さまの像が安置。

毎月、月命日前後に日を申し合わせ、当番が掃除をしてお茶を入れる。準備ができると鐘を鳴らす。それを聞いて人々がおまいりに来てお線香をあげる。お賽銭は漁協に積み立て、修繕に充てる。

（2023年7月31日 聞き取り）

(3)他、今なお法師さまの行いと生き方に感謝し、共鳴し人知れず公（人）の為に尽くしている人がいる。

- ①散歩をしながらゴミ拾いをする方
- ②道端や神社の草を気がつくと刈る方
- ③公園の草をとる方 公園の花にかける水を運ぶ方
- ④心ない人が捨てた海のゴミを集めて処分する方
- ⑤ゴミ収集場所がカラスに荒らされないよう工夫する方
- ⑥一生懸命やるが困っているといつも手をさしのべる方…等々
- ⑦海に流れついたゴミを集めてくれる方

(4)「火の元には気をつけなきゃおいねえ。」法師様が植えつけて下さった地域の人々の合言葉

人々は「入定様」と呼び崇めています。

2024年3月4日